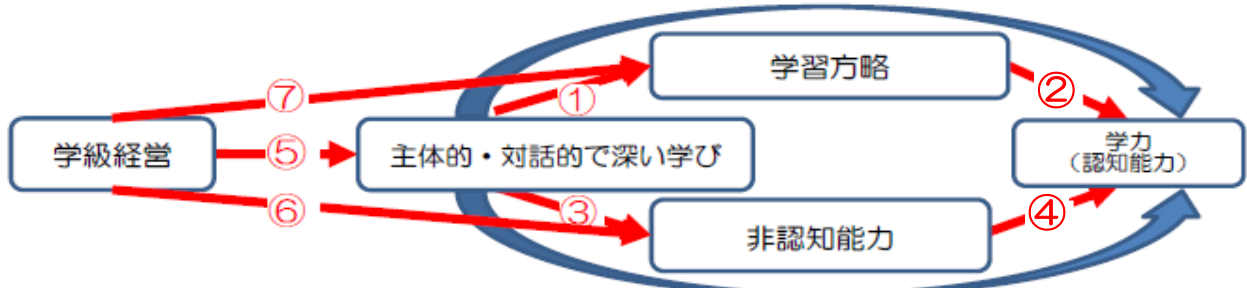


3 埼玉県学力・学習状況調査の分析から分かったこと(概要)

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる。



- 【①～④】 主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。
- 【⑤～⑦】 「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。
→ 「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

平成 28 年度から令和元年度のデータ活用事業の分析から分かったこと

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて良い学級経営(落ち着いた学級づくり)が、学力や非認知能力を向上させ、子供の学力向上につながっている
- ・保護者や地域の方々が積極的に諸活動と関係している学校は、良い学級経営(落ち着いた学級づくり)を実現している傾向がある
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現には、「授業に対する教員の意識変容」と「専門的な指導を受けながらの継続的授業改善」が重要である
- ・学力や学習方略が伸びた子供は教員との関係性が良い傾向がある
- ・毎年毎年の子供たちの非認知能力を高めることが、学力の維持向上に重要である
- ・学級内における周囲との学力差は学力や非認知能力の変容に影響する

非認知能力とは？

人間の能力

認知能力

いわゆる学力
たし算、漢字の読み書き、文章題、
図形の把握などができる力

非認知能力
…認知能力ではない能力全般

県学調で測っている非認知能力の例	
自制心	イライラしない、心の平静を保てる など
自己効力感	自分への自信、自己肯定力など
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など
やり抜く力	粘り強い、根気がある など

学習方略とは？

→ 学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う活動
本調査では、以下の6つの方略に分類

柔軟的方略 学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動	プランニング方略 計画的に学習に取り組む活動	作業方略 ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動
人的リソース方略 友人を利用して学習を進める活動	認知的方略 より自分の理解度を深めるような学習活動	努力調整方略 「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める活動

【帳票40】を活用することで、

児童生徒一人一人の非認知能力や学習方略について分析することができます。

なお、平成 28 年度から令和元年度まで実施したデータ活用事業の分析結果等の詳細につきましては、ホームページを御覧ください。(https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)